

HOKUSO



 北総鉄道株式会社

編集・発行 企画室

〒273-0107 千葉県鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷四丁目2番3号

Tel.047-445-1902

URL <https://www.hokuso-railway.co.jp>

2026年8月発行

KSEI
GROUP

HOKUSO

北総鉄道
株式会社
会社案内
2026

白井まきの
Shiroy Makino

鉄道むすめ
～鉄道萌えコレクション～

© TOMYTEC / イラスト：あとり
※「鉄道むすめ」は株式会社トミーテック
が展開する、全国の鉄道事業者の制服
を着たキャラクターです。



代表取締役社長

持永 秀毅

ごあいさつ

千葉ニュータウンと都心を結ぶ地域の足として、北総鉄道は1972年の創立以来、沿線の皆様に支えられながら歩みを重ねてまいりました。

1979年3月に北初富～小室間(7.9km)で運行を開始して以来、京成線・都営浅草線を経由した都心への直通運転の実現をはじめ、小室駅から印旛日本医大駅までの延伸、京成松戸線(旧・新京成線)・東武野田線新鎌ヶ谷駅、JR武蔵野線東松戸駅との接続など、鉄道ネットワークの充実に努めてまいりました。

また、2010年の成田スカイアクセス線開業以降は、成田空港へのアクセスを支える重要な役割も担っております。東京都区部と空港を結ぶ最短ルートの一翼を担う鉄道として、海外へ向かわれるお客様や、成田空港から各地へ向かわれる多くのお客様にご利用いただいていることは、当社にとって大きな喜びであり、誇りでもあります。

これからも、開業以来培ってきた安全・安心・快適性のさらなる向上に努めるとともに、沿線の皆様とともに地域の発展を支え、都心および空港への利便性向上に貢献してまいります。

成長戦略ビジョン『Next Hokusō』

当社は今後の事業運営について、人口減少や輸送構造の変化に的確に対応すべく、

2022年度に成長戦略ビジョン『Next Hokusō』を策定しました。

この中で、個別の戦略として5つの柱を設定しており、これらに基づき設備投資を中心とした安全施策、

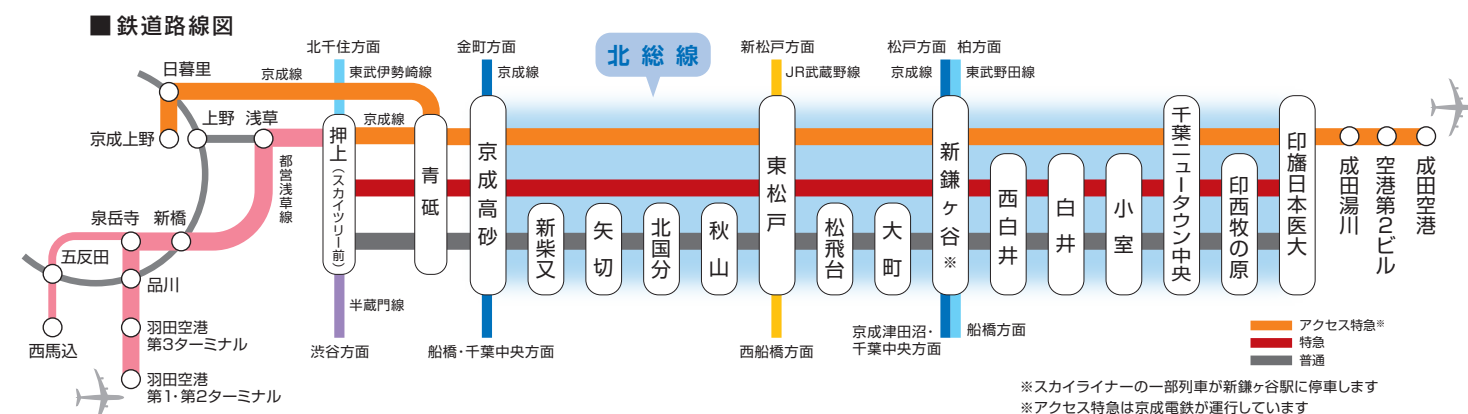
人材確保の強化や人材育成制度の導入などによる人事施策、

増客・増収に資する営業施策や沿線活性化施策などの各種施策を推進することで、

沿線関係者とも連携しながら「**鉄道事業+a**」の会社を目指してまいります。



地域の発展と「東京と 空の近道」を支える誇り



■ 会社概要

社 名	北総鉄道株式会社
設 立	1972年5月10日
事 業 所	〒273-0107 千葉県鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷四丁目2番3号 Tel.047-445-1902(代表)
資 本 金	24,900百万円
代 表 者	代表取締役社長 持永 秀毅
事業内容	鉄道による一般運輸業 その他これに関連する事業
営業キロ	第1種鉄道事業区間※ ¹ 京成高砂～小室間 19.8km 第2種鉄道事業区間※ ² 小室～印旛日本医大間 12.5km 計 32.3km
車 両 数	104両
駅 数	15駅
従業員数	348名(男性329名・女性19名)

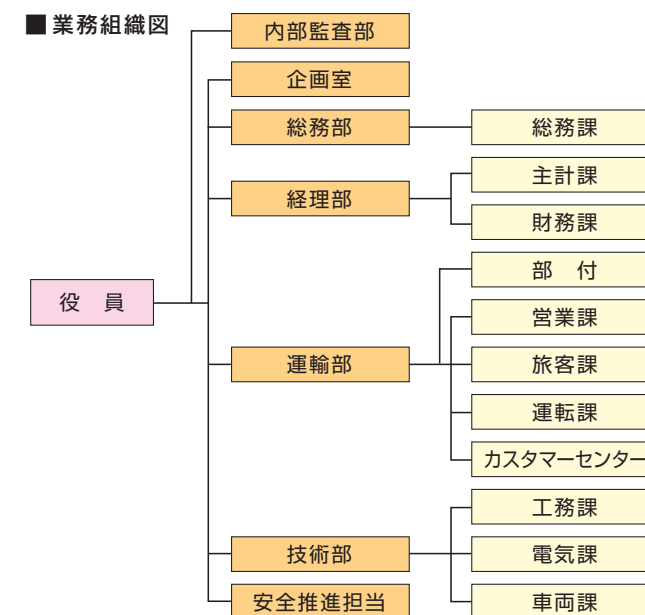
※1 第1種鉄道事業：自らの鉄道施設を持ち、旅客を運送する事業

※2 第2種鉄道事業：他の鉄道事業者から鉄道施設を借りて、旅客を運送する事業

■ 役 員

代表取締役社長	持永 秀毅
常務取締役	青柳 徹
取締役	吉野 泰宏
取締役	窺 正実
取締役	丸山 剛史
取締役	宮路 慎一
常勤監査役	小山 利明
常勤監査役	市川 哲也
監査役	天野 貴夫
監査役	金子 光

■業務組織図



■株式の状況

株 式 数	発行可能株式総数	72,000 千株
	発行済株式の総数	49,800 千株
株 主 数		14 名
株 主	京成電鉄株式会社	28,430 千株
	千葉県	11,100 千株
	独立行政法人都市再生機構	8,600 千株
	松戸市	680 千株
	市川市	506 千株
	鎌ヶ谷市	202 千株
	株式会社千葉銀行	100 千株
	船橋市	60 千株
	白井市	40 千株
	株式会社京葉銀行	20 千株
	株式会社整理回収機構	20 千株
	東武鉄道株式会社	20 千株
	印西市	12 千株
	東京電力エナジーパートナー株式会社	10 千株

〈注〉特に年度を明示していない記載内容は、2026年7月1日現在のものです。



印旛日本医大駅

線路設備

線路は道路と立体交差しているため、京成高砂駅構内を除き踏切は1か所もなく、安全性の高い構造となっています。列車騒音や振動の対策として、全線にロングレールを採用しているほか、住宅近接地では、高さ2mの防音壁を設置しています。主な構造物として、全長529mの江戸川橋梁や、NATM(山岳隧道工法)を採用した1,827mの栗山トンネルがあります。また、首都直下地震・南海トラフ地震に備え、全線の高架橋、トンネル、橋りょうなど構造物区間の耐震補強実施計画を策定・推進し、2017年度に完了いたしました。

駅設備

駅設備は、自動改札機、自動券売機、自動精算機、列車非常停止装置、エレベーター(全駅)、エスカレーター(新柴又～北国分間・東松戸・新鎌ヶ谷～印旛日本医大間)などを設け、安全・快適な輸送を支えています。共同使用駅が5駅あり、京成高砂は京成電鉄の管轄で、東松戸・新鎌ヶ谷・千葉ニュータウン中央・印旛日本医大は当社が管理を受託しています。駅設備は、経年、法令変更などに合わせ順次更新を行っており、現在は駅務機器のシンクライアントシステム及びQR乗車券への対応を進めています。

動力	直流1,500V	土工区間	18,205m
軌間	1,435mm	高架橋区間	9,217m
軌道	ロングレール	橋梁区間	1,501m
線数	全線複線	トンネル区間	3,135m
		京成線構内区間	270m
		鉄道区間合計	32,328m



車両基地

全長1.4km、敷地面積78,176㎡を有する車両基地は、2000年7月22日の印西牧の原～印旛日本医大間の開業に合わせ、使用を開始しました。車両の収容能力は、留置線6線(96両)、引上げ線2線(16両)のほか、最大152両となっています。施設として、総合事務所をはじめ、検修庫、車輪転削庫を設けているほか車両自動洗浄装置、排水除害装置、天井クレーン、台車取扱装置などを装備し、安全で快適な車両を運行するための保守や点検が行えるようになっています。

車両

車両は、7300形・7500形・7800形・9100形・9200形・9800形を運用しており、全ての列車にATSや列車無線などを装備しています。各車両は、保守・管理の省力化のために重要部検査・全般検査を委託する京成電鉄と仕様の共通化を図っています。



安全・安定輸送に 欠かせない設備

総合指令所

総合指令所は、運輸指令と電力指令を一箇所に集約し、両指令が連携することで列車の安全かつ安定した輸送を確保しています。運輸指令は全線の列車運行管理を担当しており、運行に乱れが生じた際の運転整理や、他社線との振替輸送に関する業務などを行っています。また、気象庁が発表する緊急地震



総合指令所

速報を利用した早期地震警報システム※を導入し、早期に電車を減速させることで、地震による被害の抑制を図っています。電力指令所では、6か所の変電所、き電開閉所、矢切電気室を自動制御し異常時の警報を伝達するシステムを導入、全線への電気の供給を行っています。

※初期微動から地震規模と到着時刻を予想し、本震が到達する前に列車を停止させるシステム



変電所

非常停止ボタン

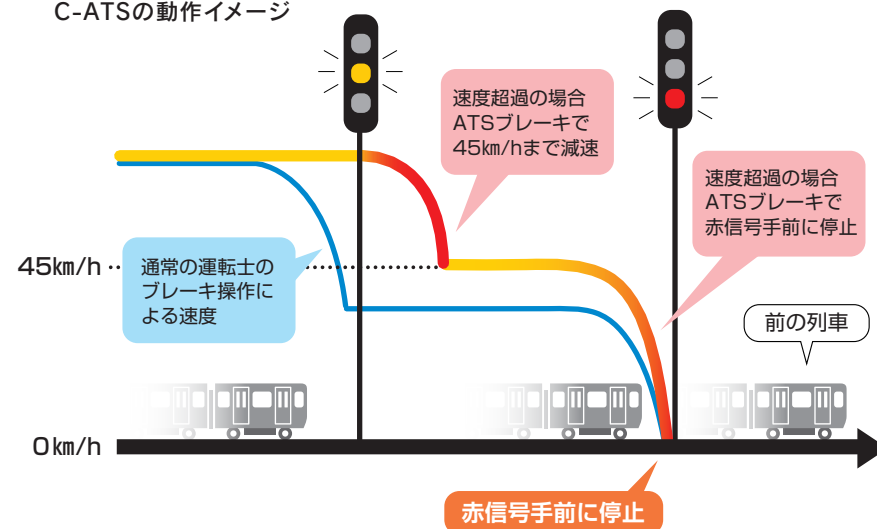
当社では、線路上の異常を駅係員等に知らせる駅ホームの「非常通報ボタン」に列車を自動的に停止させる機能を追加し、2018年2月21日より運用を開始しました。また、ボタンの位置を示す表示板のデザインにJIS規格の案内記号を採用し、視認性の向上に努めています。



デジタル自動列車停止装置「C-ATS」整備

2026年2月14日に、保安度の高いデジタル自動列車停止装置「C-ATS」への更新が完了し、更なる輸送の安全確保を図りました。ATSは、信号機が示す条件(例:赤→停止など)に合った運転操作をしていない列車に対して、運転士への警報とともに、列車を自動的に停止または減速させ、事故を未然に防止するバックアップ装置です。「C-ATS」への更新では、信号機が示す条件に加えて、急曲線やポイントの制限速度など線路の条件にも細かく列車の速度制御が可能となるため、保安度が一層向上しました。

■停止信号に対するC-ATSの動作イメージ





■ 駅務掛

主に改札窓口でのお客様のご案内及び精算や乗車券類の販売業務等に従事しています。

当社では、京成グループの一員として、「BMK推進運動」の取り組みを通じ、服装、身だしなみ、お客様への言葉遣い、笑顔での接客、親切かつ丁寧なご案内、施設の美化等の、基本的な接客マナーの向上を図り、お客様からの信頼を獲得し、気持ちよくご利用いただけるよう取組んでいます。お困りのお客様等をお見かけした際には、積極的にお声掛け・お手伝いをするとともに、構内巡回等を通じて、気持ちよく安心して電車をご利用いただけるよう、良質なサービスの提供に努めています。

また、お年寄りやお身体の不自由なお客様にも安心して駅や電車をご利用いただける“全てのお客様に優しい鉄道”を目指しており、全駅務掛のサービス助士資格の取得を進めております。

■ 乗務員(車掌・運転士)

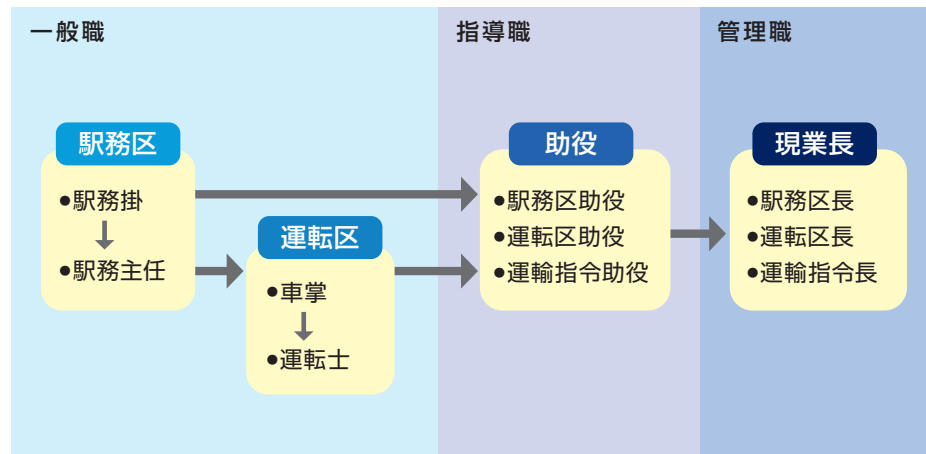
車掌は、列車が駅に到着・出発する際にホーム上の安全を確認するとともに、事故などの異常時にはお客様の避難誘導を行います。さらに、空調管理などを通じて、快適な車内環境を提供できるよう努めています。

運転士は、列車を安全・正確・快適に運行するため、定められた速度で運転し、異常を発見した際には直ちに列車を停止させる役割を担っています。

車掌	1年以上の駅務掛経験者より社内選考合格者が登用
運転士	1年以上の車掌経験者が適性検査等の社内選考合格の後、動力車操縦者養成課程(約10カ月)を経て、国家試験合格により免許を取得



駅務掛・乗務員(車掌・運転士)のキャリアアップ



※キャリアアップの一例となります。乗務員へのキャリアアップは適性によって進めます。本社部門への異動の可能性もあります。

■ 施設・線路等保守関係

建築・土木の両分野を担い、線路、駅舎、ホーム、高架橋、橋りょう、トンネルなど鉄道施設の保守・管理を行っています。日々の点検や補修、必要に応じた夜間作業を通じて、施設・線路等の安全性を維持しています。



■ 電気関係

電気設備の全般を担い、変電所、電車線、電灯・電力、信号、通信の鉄道施設の保守管理を行っています。現業区では、強電と弱電設備の担当に分け、強電設備は、電力担当が電車に電源を供給する変電所等を、弱電設備は、通信担当が電車の運行を制御・監視するシステム等をそれぞれ維持管理し、電車の安全で安定した輸送を支えています。



■ 車両関係

鉄道車両の状態が安全運行に直結することから、法令等に基づく基準に従い列車検査や月検査などを実施し、安全の確保に努めています。あわせて、突発的な異常にも迅速に対応し輸送への影響の最小化を図るほか、車両基地と始発駅間の回送列車の運転業務なども担っています。



●先輩社員の声



熊木 暖人さん 入社2年目・新鎌ヶ谷駅勤務

私は、「鉄道を通じて、地元である沿線地域の方々の生活を支えたい」という思いで入社しました。現在は入社2年目の駅務掛として、新鎌ヶ谷駅に勤務しています。やりがいを感じるののは、初めてご利用される方や、乗り換えに不安を抱えている方が、無事に目的地へ向かえるようお手伝いできたときです。そうした場面で、入社した頃に思い描いていたことに少しずつ近づけているのかな、と感じます。お客様から感謝の言葉をいただけることも、日々の励みになっています。鉄道に詳しくない方は不安に感じるかもしれませんが、手厚い研修や、質問・相談のしやすい環境があるので、安心して働けます。これからは後輩の育成にも力を入れながら、自分自身もキャリアアップに向けて勉強を続けていきたいです。



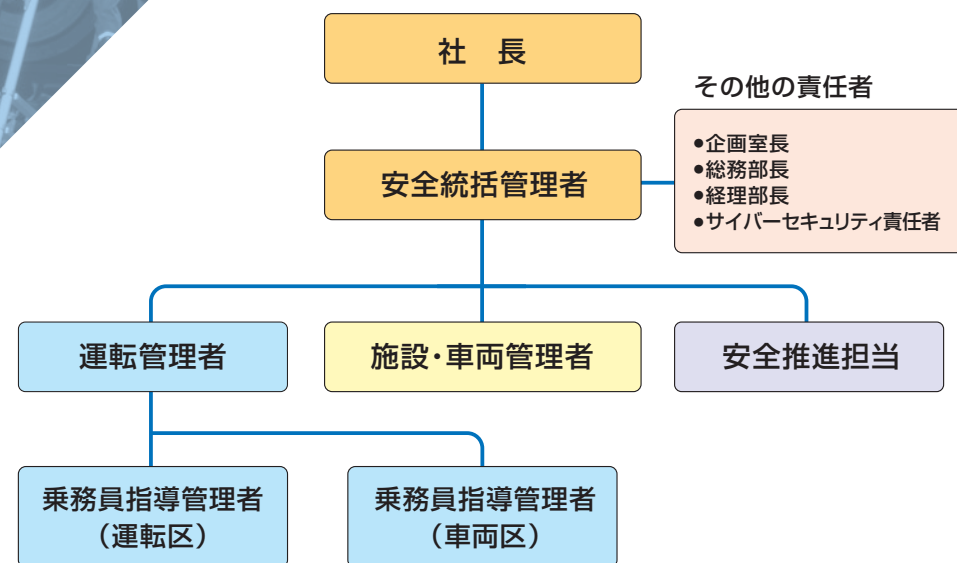
松井 大翔さん 入社5年目・車両区勤務

私は、業界としての安定性はもちろん、アクセス線の開業によって、さらに多くの人の生活を支えられることに魅力とやりがいを感じ、入社しました。現在は入社5年目で、限定運転士として車両基地～印西牧の原駅間の出入庫線の運転や、車両の点検を泊まり勤務で行っています。お客様に常に安心してご利用いただける状態を保つことを意識して、日々の業務にあたっています。配属当初は日勤務で、車両点検や車輪転削の業務にあたっていました。入社3年目に研修施設へ通い、限定運転士の免許を取得して今に至ります。今後はもっと経験を重ねて、今一緒に働いている先輩方のように、周りから信頼されて現場を引っ張っていただけるようになりたいです。



北総鉄道(株)公式HP
「お仕事紹介」にて、業務の様子を動画で公開しております。

安全・安定輸送のための取組み



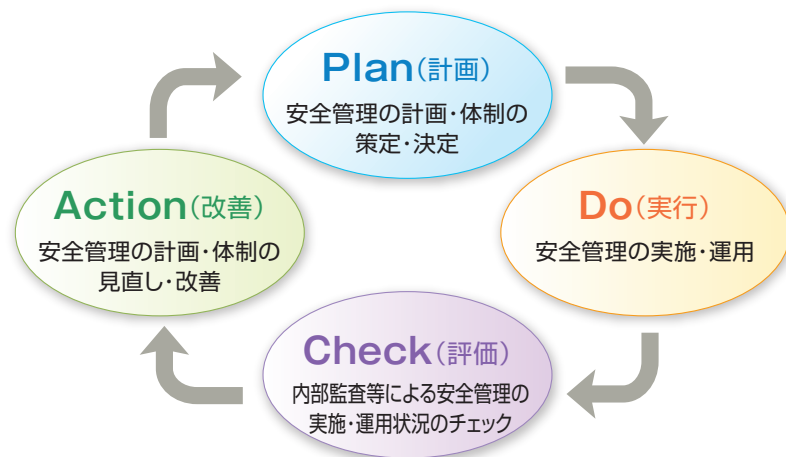
安全管理体制

2006年10月の運輸安全マネジメント制度の導入に伴い、輸送の安全性向上を目的として、安全に関する取組みの基本方針や管理方法を定めた安全管理規程を制定し、社長・安全統括管理者を始めとする各管理者の責務などを定め、輸送の安全に関して継続的な改善を推進するための安全管理体制を構築しています。

安全管理方法

安全管理体制に基づき、社長が主体的かつ積極的に関与し、鉄道の安全に関する取組み強化を図り、本社と現場が一体となり、継続的な「PDCAサイクル」によって随時必要な見直しを行っています。また、安全管理体制上の各管理者等へ安全に関する内部監査を実施するとともに、様々な施策等の討議を目的とした安全推進会議を実施する等、輸送の安全性向上に取り組んでいます。

安全管理に係るPDCAサイクル



安全推進担当

当社の「安全の要」である安全推進担当では、列車の運行に関わる安全への取組みを担うため、安全に関する重点施策の策定、輸送の安全に関する継続的な改善の推進をはじめ、災害・事故等の調査・分析及び対策の策定や、異常時に備えた対応訓練の企画や運営に取り組んでいます。また、安全に関する内部監査の実施や、鉄道事業法に定められた毎年度の安全に関する取組み状況を公表する「安全報告書」の作成等にも従事します。更に、万一実際に災害や事故等が発生した場合は、対策本部の設置や運営に当たります。

乗務員の資質管理

全乗務員に対する、定期的な「知識」「技能」「適性」の確認を通じて、資質管理を行っています。また乗務員は、乗務前に必ずアルコール検知器による検査及び、心身状態の異常の有無を確認しています。



アルコール検査

安全意識向上のための取組み

当社では、国や関係機関が推進する交通安全運動および輸送安全総点検に積極的に取組み、安全意識の向上に努めています。春および秋の「全国交通安全運動」では、趣旨に則った各種取組みを行うほか、お客様への交通安全に関する周知・啓発を通じて、鉄道事故の未然防止に努めています。夏季および年末年始の「輸送安全総点検」では、自主点検をはじめとする各種取組みを通じて安全意識の向上を図るとともに、輸送の安全確保および事故防止の徹底に取り組んでいます。具体的には、社長や安全統括管理者などの役員による職場巡視をはじめ、事故やテロなどの異常発生時を想定した対処

訓練、護身術や防護用品等に関する講習会、安全確保やテロ対策への理解を深めるための講演会などを実施しています。



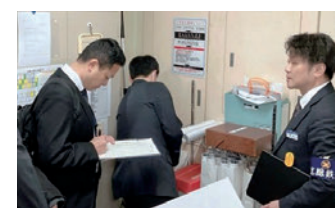
社長巡視の様子

これら運動期間中や期間外にも安全意識向上のため、下記の取組みを行っています。



●テロに関する講演会

警察関係者等を講師に招き、テロ等の鉄道妨害行為の事例や対策等に関する講演を実施しています。これにより、社員のテロ防止に関する意識や知識を深め、安全意識の向上を図っています。



●自主警備状況の点検

「テロ対策ネットワーク・CHIBA」の取組みの一環として、千葉県警から駅での自主警備状況の点検と防犯に関する指導を受けることで、テロ等の鉄道妨害行為の未然防止に努めています。



●不審者対応訓練

同業他社で発生した列車内や駅構内での傷害事件を受け、警察・消防やJR武蔵野線東松戸駅などの乗換駅等との連携強化を図るとともに、駅係員や乗務員の現場対応力の向上を目的として実施しています。



●京成電鉄との異常時合同訓練

当社線内では、京成電鉄の乗務員が運転するスカイライナー及びアクセス特急が運行されているため、異常発生時には京成電鉄との協力が必要となります。加えて、警察や消防とも連携し、異常時の対応やお客様の救助・避難誘導を想定した総合的な訓練を実施しています。

安全報告書の公表

鉄道事業法に基づき、安全性向上に向けた施策の内容や取組み状況・実績、その他安全に関する情報を毎年度「安全報告書」として取りまとめ、当社ホームページで公表しています。

安全報告書は
こちらから
ご覧いただけます



地域活性化やサステナビリティの取り組み

11

住み続けられる
まちづくりを

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

「北総線沿線活性化トレイン」運行

北総線沿線地域のPRと、沿線地域に活力を生む「若い子育て世帯の沿線への入居促進」を目的に、千葉県内沿線自治体と当社が組織する北総線沿線地域活性化協議会により、「北総

線沿線活性化トレイン」を2022年から毎年運行しています。北総線だけではなく、都心方面や羽田空港まで乗り入れることで、電車利用のお客様に対し広くPRを行っています。

「ほくそう春まつり」開催

北総線沿線地域及び千葉ニュータウンのイメージアップ・活性化並びに、当社線ご利用のお客様への感謝の気持ちを込めて、地元自治体である印西市、白井市および(株)パイエフエム他と協働し「ほくそう春まつり」を開催しています。ステージイベントやミニ電車の運行、鉄道会社のグッズ即売会等の多様なプログラムにより、延べ28,000人余が来場する地域に根付いたイベントとなっています。



沿線情報誌「もっと北総Smile」発行

沿線イメージの向上や、将来的な来訪者・転居者獲得を図るための広報活動として、沿線の住み心地や子育て情報をPRする「もっと北総Smile」を発行しています。



「ディスカバリーほくそう」を活用した各種イベントを開催

当社オリジナルグッズやイベント情報を一元的に紹介し、通信販売や、申込手続きができるワンストップサービスの提供を目的としたサイトです。



サイトQRコード



ディスカバリー
ほくそう

『ウマ娘 プリティーダービー』とのコラボレーション企画を実施

白井市と当社は、「白井駅・西白井駅周辺地域の活性化に関する協定」に基づく取り組みの一環として、株式会社Cygamesの協力のもと、白井駅・西白井駅および白井市で『ウマ娘 プリティーダービー』とのコラボ企画を実施しています。西白井駅近傍に「JRA競馬学校」が所在するなど、白井市と馬とのつながりを活かし、地域の魅力に触れていただくことを目的としています。



西白井駅改札窓口



白井駅ホーム壁画

© Cygames, Inc.

「市川市動植物園×北総鉄道 コラボまつり」を開催

2024年3月に沿線自治体である市川市と締結した「地域活性化に関する協定」に基づき、子育て世帯の市川市動植物園への来園機会を創出し、認知度向上や来園者の増加に繋げることを目的として開催しています。



「ほくそう車両基地まつり」開催

京成グループ秋のBMK®お客様感謝イベントの一環として開催している、親子を対象とした事前応募制の参加型イベントです。様々な学びや体験を通じて、鉄道への理解を深めてもらうとともに、子どもたちの成長と家族の思い出づくりの応援を目的としています。

※「ベスト マナー 向上」の略。利用者とのコミュニケーションやサービスの向上及びマナーや接遇の向上を目指す。



ファイターズ鎌ヶ谷スタジアム（以下：鎌スタ）との連携

沿線有数の観光資源であるプロ野球北海道日本ハムファイターズのファーム本拠地（鎌スタ）と協働し、沿線地域の活性化を図っています。この一環として毎年9月には当社スポンサー試合「北総鉄道DAY」を開催し、お子様をはじめ多くの野球ファンの方にご来場いただいています。

2024年度からは、京成バス千葉ウエスト(株)協力のもとファーム・リーグ公式戦が開催される土休日に大町駅から鎌スタ間で路線バスを運行し、観戦客へのアクセスルートの提供により利便性と沿線価値の向上に努めています。



沿線の学校と連携した人材育成への貢献

東松戸駅と松飛台駅が最寄り駅の松戸市立松戸高等学校と連携し、下記の施策を実施しています。



●通訳ボランティア

京成電鉄が運行する成田スカイアクセス線の停車駅でありJR武蔵野線との接続駅でもある東松戸駅は、東京ディズニーリゾート®や埼玉県方面などへ向かう多くの訪日外国人のお客様が利用されることから、サービス向上とグローバルコミュニケーションを実践する学びの場として、同校の生徒を迎え、通訳ボランティアを実施しています。

この取り組みを通し、語学力・ホスピタリティ向上といった地域を担うグローバルな人材の育成に貢献しています。

●「取材・編集・発信」を担う共同情報発信プロジェクトを始動

鉄道会社として、少子高齢化やライフスタイルの変化が進む中、「沿線の持続的な活性化」は重要な課題となっています。一方、教育現場では、校内では得られない実践的な学びを実社会で得る重要性が高まっています。

本プロジェクトは、同高の生徒が北総線沿線へ実際に足を運び、取材からコンテンツ（リアル動画・フィード投稿）の制作まで担当することで「企画力」「発信力」「情報編集力」を養う機会を提供します。併せて、現役高校生ならではのリアルでユニークな視点を通じて沿線の新たな魅力を掘り起こし、既存の当社広報では届かなかった層へ沿線の魅力を発信します。



HOKUSO.RAILWAY

北総鉄道公式Instagramアカウント
ユーザー名: @hokuso.railway

災害用備蓄品の
寄付を実施

当社では、食品ロスの削減による環境負荷の低減と地域社会への貢献を両立するサステナブルな取り組みとして、社員向けの災害用備蓄食品の有効活用を進めています。2025年度からは、災害時の安定した事業継続に備え、計画的に消費・補充を行う「ローリングストック方式」による管理を開始しました。その一環として、保存期限が近づいた備蓄食品を鎌ヶ谷市へ寄付しました。

UR都市機構、北総鉄道、千葉ニュータウンセンターの
三者で連携を開始

UR都市機構、北総鉄道、千葉ニュータウンセンターは、魅力向上(リブランディング)や積極的な定住促進をとおして、「住んでみたい・住み続けたいまち千葉ニュータウン」の実現を目指し、2025年1月23日より三者での連携を開始しました。

2025年2月に「るるぶ千葉ニュータウン」を発刊し、「千葉ニュータウン」の住みやすさ・くらしやすさを紹介したほか、千葉ニュータウンでのくらしをより楽しんでいただくため、UR賃貸住宅への新規契約者を対象とした「車両基地見学」などのコラボ企画を実施しました。

2025年11月12日からは、千葉ニュータウンでの暮らしの紹介や疑問・相談に応える双方向コミュニケーションを通じて、本エリアの魅力を発信するUR都市機構との共同Instagramアカウント【千葉ニュータウンファミリーひろば】を開設しました。既にお住まいの方にも、まだお住まいでない方にも、居住者のリアルな声や暮らしに役立つ情報を発信することで、千葉ニュータウンでの暮らしへの理解を深め、将来にわたって居住していただける街を目指しています。



@CHIBA_NT_KURASHI

アカウント名: 千葉ニュータウンファミリーひろば
| みんなのくらし相談室
ユーザー名: @chiba_nt_kurashi

「ちばの木の香る街づくり推進事業」を利用した
駅設備の整備

当社では、ご利用のお客様にとってより快適な駅、より地域に親しまれる駅となることや、地球環境の保全、循環型社会の形成、森林が有する多様な公益的機能の発揮、地域経済の活性化への貢献を目指して、駅設備に千葉県産の木材を活用

しています。

西白井駅、白井駅のホーム待合室を皮切りに、新鎌ヶ谷駅トイレおよびステーションラウンジこもれびのベンチ、ホームベンチやコンコースなどで活用しています。



千葉県産の木材を再利用して製作したベンチと掲示しているプレート



西白井駅待合室内装

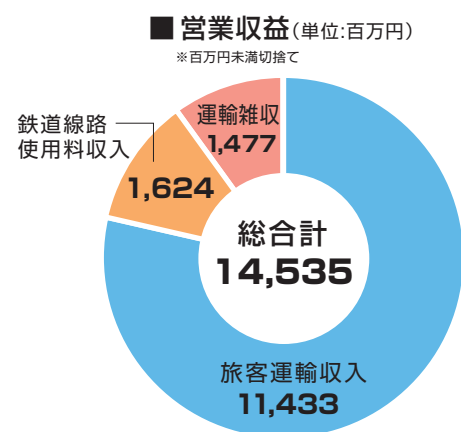
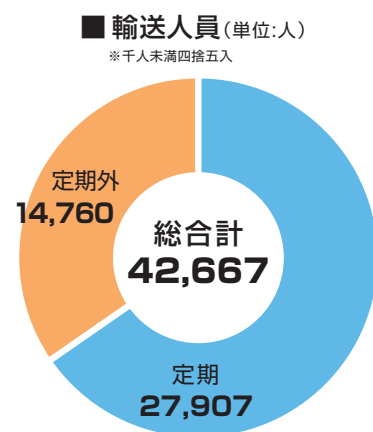


新鎌ヶ谷駅トイレ(男子・女子・多目的トイレ全てリニューアル)

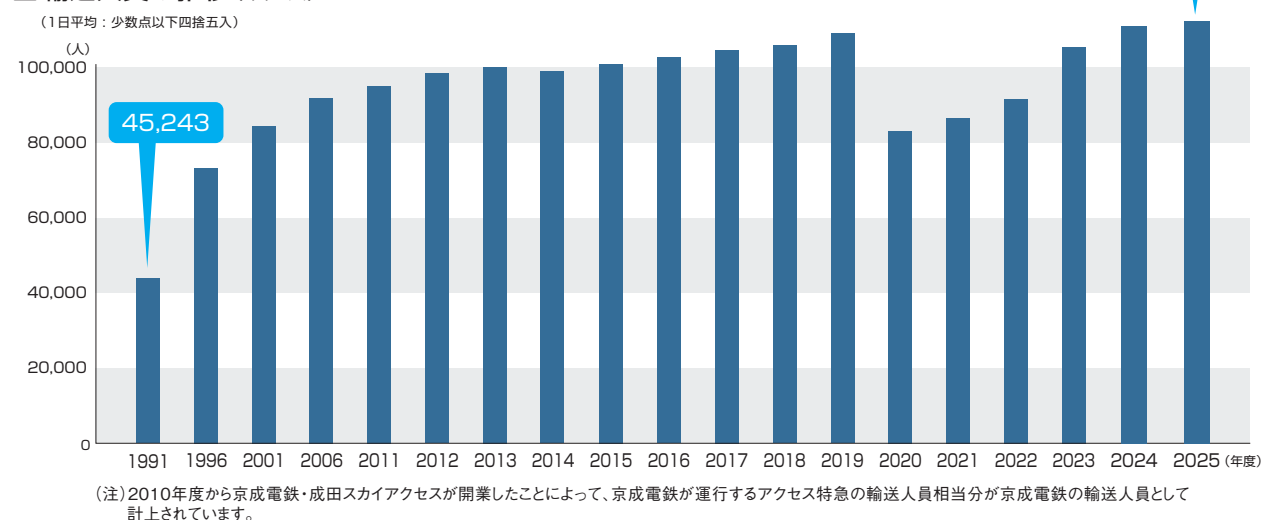
■ 輸 送 実 績

開業から累計12億人のお客様にご利用いただいています。

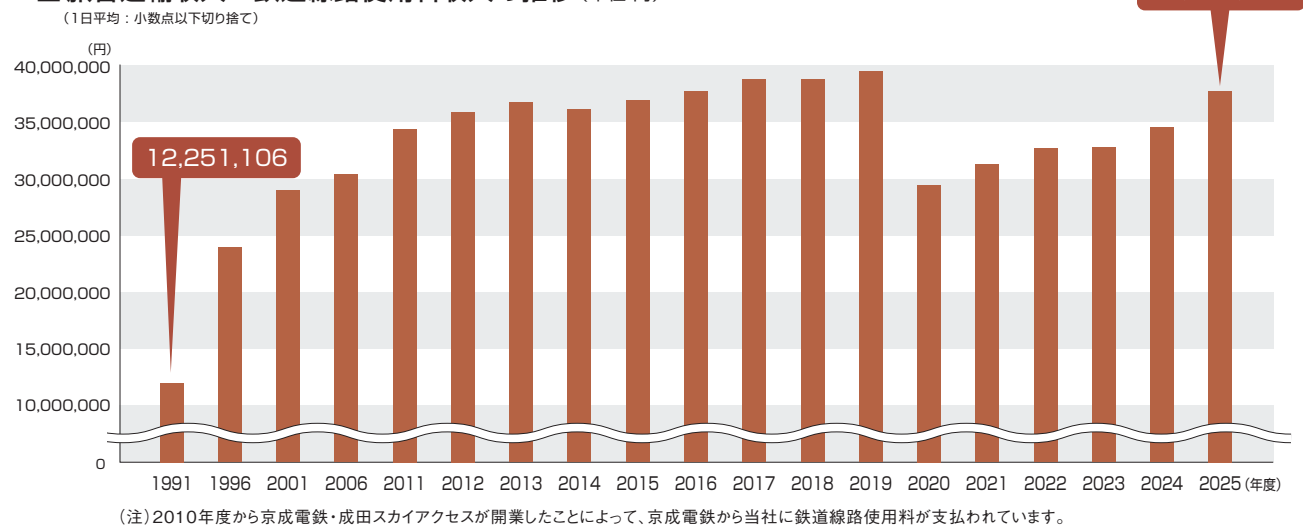
2025年度 輸送成績				
営業日数	在籍車両数	旅客営業キロ	列車走行キロ	客車走行キロ
365日	104両	32.3キロ	1,802千キロ	14,413千キロ



■ 輸送人員の推移 (単位:人)



■ 旅客運輸収入・鉄道線路使用料収入の推移 (単位:円)



■ 沿 革

北総鉄道の始まりは、千葉ニュータウン開発構想でした。1972年(昭和47年)から現在まで、地域の発展と歩みを重ねて成長してきました。

1972年
5月10日

●会社設立

膨張する首都圏の宅地需要を受け入れるため、1966年5月、千葉県は千葉ニュータウン開発構想を発表。このニュータウンの足として、地下鉄1号線(都営浅草線)を延伸し、京成高砂から船橋市小室に至るルートが計画されました。本ルートの事業化のために設立されたのが当社です。



1979年
3月9日

●北総1期線(北初富～小室間)開業

千葉ニュータウンの街開きに合わせるため、路線の建設は、ニュータウン内を優先することとされました。新京成線(現・京成松戸線)へ乗り入れる開業時の路線は5年の歳月と約200億円をかけて完成。1979年3月9日から北初富～小室間の営業を開始し、新京成線(現・京成松戸線)松戸までの直通運転を行いました。



1984年
3月19日

●小室～千葉ニュータウン中央間 開業

1991年
3月31日

●北総2期線(京成高砂～新鎌ヶ谷間)開業

1982年8月、京成高砂～新鎌ヶ谷間11.7kmについて、運輸大臣から工事施行認可を受け、8年の歳月と約1,200億円をかけて完成。1991年3月31日から営業を開始すると同時に、京成線、都営浅草線、京急線との相互直通運転を開始しました。



1992年
7月8日

●松戸直通運転の廃止

1995年
4月1日

●印西牧の原駅開業

2000年
7月22日

●印旛日本医大駅開業

2004年
7月1日

●会社名と路線名を変更

2004年7月1日、社名を北総鉄道株式会社に改称しました。また同日、都市基盤整備公団(現・都市再生機構)の独立行政法人化に伴い、同公団所有の鉄道施設等が千葉ニュータウン鉄道株式会社へ譲渡されました。これにより、路線名を北総・公団線から北総線に変更しました。



2010年
7月17日

●成田スカイアクセス開業

都心と成田空港を結ぶ待望の新ルートである成田スカイアクセスが開業。当社線を通るスカイライナーおよびアクセス特急の運行が開始され、空港アクセスが大きく改善しました。計画から約28年、当社は空港アクセス鉄道としての新たな役割を担うことになりました。



2022年
10月1日

●運賃値下げを実施

地域のインフラとして、利便性向上や事業基盤の維持・向上に資するよう運賃値下げを実施しました。全体として15.4%値下げを実施し、**家計への負担の大きい通学定期については平均64.7%の大幅値下げを実施**しました。

2026年
3月31日

●北総2期線(京成高砂～新鎌ヶ谷間)開業・7300形デビュー35周年

1991年3月31日に北総2期線として京成高砂～新鎌ヶ谷間が開業し京成線・都営浅草線・京急線との相互直通運転による都心へのダイレクトアクセスを実現してから、本年で35周年を迎えました。また、同区間開業に合わせてデビューした7300形も35周年を迎えました。

